

## 平成21年度支部定例シンポジウム～システム開発支援シンポジウム2009～

## 【平成21年度中国・四国支部支部運営費】活動報告

## 1. 活動内容

日時：平成21年11月13日（金）13：20～16：20

会場：岡山国際交流センター（岡山市北区奉還町2丁目2番1号）

組織：実行委員長：亀山嘉正（岡山県立大学）

## プログラム（予定）

13：20～13：30：支部長挨拶 支部長 山田 茂

13：30～14：00：○大田垣博一（岡山理科大学），徳山貢（徳山電気技術研究所）

「カオス信号を用いた情報伝送支援システム」

14：10～14：40：○藤本宏美，亀山嘉正，倉重賢治，犬飼義秀（岡山県立大学），

宇治川允彦（（株）両備システムズ）

「Jリーグサッカースケジュール作成支援法」

14：40～15：00：休憩（20分）

15：00～15：30：○小野孝男（岡山県立大学），柳浦睦憲，平田富夫（名古屋大学）

「ベクトル割当にもとづく彩色問題の発見的アルゴリズム」

15：40～16：10：○大久保寛基，宮崎茂次（岡山大学）

「自律分散制御を用いたフレキシブル生産システム開発」

16：10：閉会の挨拶

## 2. 会計報告

摘要	単価	数量	金額	備考	税金
会場費	3,600	1	3,600		0
会場準備費	9,795	1	9,795		0
講演謝金	11,111	4	44,444		4444
合計:A			57,839		4444
入金 摘要	単価	数量	金額	備考	
支部定例シンポジウム費	60,000	1	60,000		
合計:B			60,000		
残高(B-A)			2,161		

実施報告，会計報告，明細，領収書を監査した結果，適切に処理されていることを確認致しました。

署名

西崎 一郎



署名

福山 敬



## 次世代ロジスティクス&サプライチェーン研究部会【平成21年度中国・四国支部運営費】活動報告

(主査：上野信行(県立広島大学)，幹事：韓虎剛(県立広島大学)，副幹事：重丸伸二(県立広島大学))

### 平成21年度 次世代ロジスティクス&サプライチェーン研究会活動報告 (日本OR学会中国四国支部事業)

#### 1. 実施報告

##### 1.1 第1回研究会

日時：平成21年9月14日(月) 13:30～17:00

場所：ひろしまハイビル21(広島市中区銀山町3-1)

共催：日本経営システム学会中国四国支部

協賛：日本機械学会中国四国支部

後援：計測自動制御学会中国支部，電気学会中国支部，電子情報通信学会中国支部

内容：

(1) 13:30～13:40

挨拶 上野 信行(次世代ロジスティクス&サプライチェーン研究会主査 県立広島大学・経営情報学部・教授)

(2) 13:40～15:10

題目「サービス品質向上に寄与する従業員態度の促進要因の分析」

原口 恭彦(広島大学大学院社会科学部研究科マネジメント専攻 准教授)

概要

経済のサービス化が高度に進展した現代においては、提供サービスの質を向上させることが、企業経営上の重要な課題となっている。これは、サービスそのものを商品としている業種だけでなく、物販に付随したサービス提供を行っている業種についても例外ではない。これら広い意味でのサービスは、いわゆる製品とは異なり、サービス提供の場における、生産と消費の同時性に大きな特徴がある。そして、この同時性ゆえに、サービス品質の向上には、サービス提供者である従業員の意識や行動といった態度が重要な役割を果たすことになる。本報告では、これらの従業員態度に影響を与える要因についての分析と適切なマネジメント施策について紹介があった。

(3) 15:30～17:00

題目「サービス工学：サービス生産性向上の科学的工学的手法」

内藤 耕(産業技術総合研究所 サービス工学研究センター 次長)

概要

わが国経済で大きな位置を占めるようになってきたサービス産業の生産性向上が

喫緊の課題である。これまで経験と勘に頼ってきたこのサービス産業に、科学的工学的手法の導入に大きな期待が寄せられている。様々な先進的サービス事例をもとに、科学的工学的手法を導入することの有効性について紹介があった。

出席者:約60名。遠方からの出席者を含め盛会。新しい学問(サービス工学)が生まれる熱気を感じた。

## 1. 2 第2回研究会

日時：平成22年2月6日(土) 13:40～17:20

場所：広島経済大学立町キャンパス

(住所：広島市中区立町2-25 ORE広島立町ビル)

共催：日本経営システム学会中国四国支部、日本オペレーションズ・リサーチ学会研究部会「価値の創造とR」

協賛：プロジェクトマネジメント学会中国支部、日本機械学会中国四国支部

内容：

(1) 13:40～13:50

挨拶 上野 信行 (次世代ロジスティクス&サプライチェーン研究会主査 県立広島大学・経営情報学部・教授)

(2) 13:50～14:50

題目「公立美術館におけるサービスの質向上のための中長期的な運営効率性評価(仮題)」  
春名 亮 (金沢学院大学基礎教育機構 講師)

概要

これまで、文化施設を定量的に評価することは困難とされてきたが、昨今では公共施設の運営にも効率性向上が求められている。しかし、公立美術館の設置目的や中核的役割を考えると、公費を投入してでも運営すべきかもしれない。また、入場者数や観覧料のみの視点からは効率性を評価すべきではないと考えられる。それゆえに、短期的なコスト削減のみを重視するのではなく、多面的かつ長期的な効果も考慮した評価方法を検討すべきである。また、居住人口やその構成、交流人口や美術館までのアクセス情報などの美術館周辺地域の特性も重要な要因となり得る。これらを踏まえた総合的な公立美術館の運営効率性を評価する方法とその適用事例について発表があった。

(3) 15:00～16:00

題目「感情指向型インタフェースを用いたネットワークコミュニケーションサービス」  
市村 匠 (広島市立大学大学院情報科学研究科知能工学専攻 講師)

概要

近時、コンピュータやモバイル機器の普及により、対面的コミュニケーションの機会が減少しており、対話時の円滑なコミュニケーションの際に行われていた、かすかな情動から相手の心情を読むことも行われなくなってきた。一方、インターネットサイトでは、ユーザが残した履歴等処理して、ユーザ固有の行動を分析し、結果として個人の特徴をとらえた様々なサービスを提供している。ところが、これらのサービスは、特定の行動を分析した結果に過ぎず、本質的な欲求を満たすレベルには至っていない。本発表では、人間の情動から欲求を分析することで、人間の行動的プロセスと心的プロセスの相互作用を考慮した感情指向型インタフェースを構築し、これをネットワークコミュニケーションサービスに適用する試みについて提案があった。

(4) 16:20～17:20

題目「サービスイノベーションのための情報の戦略的活用」

久保田 明 (ドコモエンジニアリング中国 (株) システムソリューション事業部長)

概要

サービスの高度化には、情報の観測、分析、設計、適用等、情報活用の高度化が必要である。この情報活用の高度化のためには、組織 (BICC等)、IT、人材の育成等が必要であることは言うまでもないが、具体的に、情報活用の高度を推進するには、情報活用の発展モデル(レベル1～レベル5)を定義し、その発展段階毎に適切な施策を実施していくことが必要である。これらに向けた取り組みを、NTTドコモの事例等を含めて御説明すると共に、通信産業だけでなく、他の産業と連携した、サービスの高度化に向けた、先進的な取り組みについても紹介があった。

出席者:約30名。遠方からの出席者を含め盛会。

### 1. 3 第3回研究会

日時：平成22年2月24日(水) 14:00～17:30

場所：ひろしまハイビル21 (住所：広島市中区銀山町3-1)

共催：日本経営システム学会中国四国支部

協賛：プロジェクトマネジメント学会中国支部、日本生産管理学会中国四国支部

後援：計測自動制御学会中国支部、電気学会中国支部

内容：

(1) 14:00～14:10

挨拶 上野 信行 (次世代ロジスティクス&サプライチェーン研究会主査 県立広島大学・経営情報学部・教授)

(2) 14:10～15:40

題目「中国地域の産学官連携活動と企業意識調査について」

都留 良男（中国経済連合会 理事（産学連携担当））

#### 概要

- ・中国地域の産学官連携の状況

平成14年から産学官の関係機関で、「中国地域産学官コラボレーション会議」を結成し、連携活動を推進してきた。その結果、共同研究、大学発ベンチャー、特許は増加し、企業による商品化も増加するなど成果も出ており、それらの事例について報告があった。

- ・中国経済連合会の取組

上記「コラボレーション会議」の事務局として、地域の連携活動を幅広く支援してきた中国経済連合会について説明があった。

- ・産学官連携に関する企業意識調査

こうした現状において、企業が産学官連携をどのように捉えているか把握し、今後の活動の参考にするために実施した「企業意識調査」の結果について報告があった。

- ・産学官連携の課題・問題点

「企業意識調査」の結果から、企業が抱く連携の課題・問題点をまとめた。

(3) 16:00～17:30

題目「中国地域におけるサービス産業フィールドサーベイ事例報告」

桑原 良弘（中小企業基盤整備機構中国支部 チーフアドバイザー）

#### 概要

中小企業基盤整備機構中国支部では、中小企業の経営支援を推し進めるため、経営・技術・財務等の専門家を長期間継続して派遣し、企業の発展段階に応じてタイムリーで適切なアドバイスをおこない、その成長・発展をサポートしている。一昨年よりサービス産業の生産性向上とイノベーションを図ることをねらった中国経済産業局の政策事業と連動して経営支援を進めてきた。

その支援を進めるに当たって支援開始までの流れ、経営課題とその対応、支援状況など、フィールドにおける事例をもとにサービス産業支援の現状について報告があった。

出席者:約30名。

## 2. 会計報告

	決算	備考
(収入の部)		
支部交付金	30,000	
収入合計①	30000	
(支出の部)		
講演謝金 (9月14日)	✓ 5,555	@5,555×1, @0×1 (謝金辞退)
講演謝金 (2月6日)	✓ 5,555	@5,555×1 講演謝金(2月6日)
講師謝金 (2月24日)	✓ 16,666	@16,666×1 講師謝金(2月24日)
その他	✓ 2,224	お茶, 通信費, 文具
支出合計②	30000	
残高 (①-②)	0	

以上

実施報告, 会計報告, 領収書を監査した結果, 適切に処理されていることを確認致しました。

署名

西山 一郎



署名

福山 敬



# ソフトウェアマネジメント国際シンポジウム2009～人材育成とマネジメント技術～【平成21年度中国・四国支部支部事業費】活動報告

## 1. 活動内容

日時：平成21年11月27日（金）13：30—18：30

会場：県民ふれあい会館 講義室

共催：鳥取県受託事業「北東アジア学術交流支援事業」

協賛：社団法人鳥取県情報産業協会，鳥取大学大学院工学研究科社会経営工学講座

組織：実行委員長：山田茂（鳥取大学）

事務局：井上真二（鳥取大学）

実行委員（アイウエオ順）：井上真二（鳥取大学），田村慶信（山口大学），得能貢一（鳥取大学），豊田寿行（鳥取環境大学），山田茂（鳥取大学）

プログラム（予定）

1. 13:45—13:55 実行委員長挨拶（山田教授）
2. 13:55—14:05 シンポジウム開催にあたり（株式会社ITTR 代表取締役 松田善夫）
3. 講演

（第1部）：マネジメント技術

1. 14:05-14:40 藤原隆次 氏（ビジネスキューブ・アンド・パートナーズ株式会社）  
「ISO/IEC15504(Automotive SPICE)に基づくプロセス改善活動と最近の動向」
2. 14:40-15:15 福島利彦 氏（株式会社日新システムズ）  
「プロセス品質と製品品質の持続的向上活動とその効果」

休憩（15分）

3. 15:30-16:05 Dr. Dong Ho Park 氏（Professor, Hallym University, Korea）  
「Multi-Task and Multi-Module Software System with Consideration of Module Dependency」
4. 16:05-16:40 Dr. Kyung H. Nam 氏（Professor, Kyonggi University, Korea）  
「Introduction to the Quality Assessment of Korea National Statistics」

休憩（15分）

（第2部）：人材育成

5. 16:55-17:30 サチン・チョードリー 氏（株式会社ITTR 代表取締役社長）  
「IT先進国インドの実力」
6. 17:30-18:05 大場充 氏（広島市立大学・教授）  
「ソフトウェア工学教育カリキュラムにおけるマネジメント教育の実践」

## 2. 会計報告

摘要	単価	数量	金額	備考	税金
講演費(邦人)	11,111	3	33,333		3333
講演費(外国人)	12,500	3	37,500		7500
会議費	51,166	1	51,166		0
合計:A			121,999		10833
入金 摘要	単価	数量	金額	備考	
支部事業費	121,999	1	121,999		
合計:B			121,999		
残高(B-A)			0		

実施報告、会計報告、明細、領収書を監査した結果、適切に処理されていることを確認致しました。

署名

西崎 一郎



署名

福山 敬

